

## 「東日本大震災アーカイブ宮城の１０年」

### ○ 東日本大震災アーカイブ宮城の『これまで』

- 平成２５年度より、総務省の事業を活用して、当館と全市町村とが連携・協力し構築を開始した。平成２７年６月に、被災（県）自治体としては初めて震災アーカイブを公開した。
- サイト公開から２～３年はソフトウェアの改修やハードウェアの更新が重なり、思うような活動ができなかった。
- サイト公開資料数約２２万件に対し、未公開資料が約１８万件（県管理分：約２万件、市町村管理分約１６万件）存在する。これらのうち、公開可能なものを順次処理しサイトに公開しているが、ほとんどが権利者への許諾が必要な資料であるため、連絡などに時間を要している。
- また、公開・未公開資料問わず、資料に付与している情報（メタデータ）の精度にも課題があることが分かってきた。

### ○ 東日本大震災アーカイブ宮城の『これから』

#### 1. 未公開資料の早期公開と資料収集の継続

- 時間が経過するにつれ未公開資料の権利者に対する連絡が困難になっている。未公開資料の公開は、当アーカイブの最大の課題として対応していく。
- これらに加え、「１０年を機に」当アーカイブへ寄贈を検討する個人・機関もあり、新規資料の収集についても重点的に行う。

#### 2. メタデータの精度向上

- メタデータの付与が不十分なため、一部の貴重な資料が埋もれてしまっている。現在も、検索性キーワードの補完や撮影場所の調査・入力を行っているが、資料の利活用向上のためさらに力を入れていく。

#### 3. 連携市町村との関係強化

- サイトを共同運営する連携市町村の協力なくして諸々の課題を解決することはできないため、実質的な運営代表機関である当館が活動の方向性を示していく。

#### 4. 外部環境変化への対応

- 今後様々な機関が総括的な活動を行うことが予想され、当アーカイブがそれらに関わることができるよう検討していく。

⇒ 震災後間もない時期に行われた震災資料の収集及びサイト構築は、資料散逸の懸念から、まずは収集資料数の実績を上げることが第一目的であった。

今後は、量的なものもさることながら、メタデータの精度向上をはじめとし、「資料とその情報の質」に重点を置き、地道に、丁寧に業務を行う。